今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇5月22日～

先週の為替相場はドル／円が順調に上昇したこともあり、クロス円も上昇したペアが多かったです。
為替相場だけを見ていると何もない感じですが日本株がすごい動きになっています。
日経平均や TOPIX などの株価指数を見ると 2021 年につけた高値も更新し、最近見ないような急激な上昇となっています。
背景には、海外勢の日本株買いと売り方の買い戻しがあるようですが米国株の弱さを見ると違和感があります。
債務上限問題と銀行に対する不安から米国株を積極的に買う動きは抑えられているようです。
日銀が金融緩和をしばらく続けるという予想も多く、日本が欧米に比べると安心感があるように見えるのかもしれません。
しかし、東証マザーズ指数などはほとんど動きがないため中小型株は買われている様子もなく、全体的に買われているというよりは、大型株の一部が大きく買われているという動きです。
2005 年、2013 年にも海外勢が大きく日本株を買ったことがありますが同じくらいの規模の買いが 4 月、5 月で入ってきているという話です。この時は為替も円安に動きました。
海外勢は為替リスクをヘッジするために日本株買いと円売りを同時に仕掛けることが多く、これがドル高円安要因になります。
この株の上昇と連動したドル／円の上昇が続くかどうかも見ておきたいです。
ただし、過熱感で見るとかなりのレベルなので、今週は日経平均などの急落によるリスク回避の動きを警戒しておきたいです。
経済指標以外にも米国の債務上限引き上げ問題がどうなるかというニュースと 6 月の米国利上げに関する情報にも注意しておきたいです。
6 月利上げについては不透明感が強く、どうなるのか予想が分かれています。
パウエルFRB議長も先週末に利上げについて慎重な態度を見せたため 6 月にかけて債務上限問題で相場が混乱するような動きになれば利上げ停止の可能性もあります。
利上げ停止となればドル高の流れが変わってくるかもしれないので、チャートの動きも確認しながら慎重に取引したいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は３月、５月初めに超えられなかった138円を超えて、138円台後半まで値を伸ばしました。
昨年10月高値の151．94円と今年1月安値127．22円の半値（50%）戻しは139．58円なので、139円を超えてきた場合は、このあたりでは利益確定を考えてもよさそうです。
節目の140円あたりも抵抗として意識される価格帯なので、あまり大きく上昇していくと期待せずに利益確定をどこでするか考えながら取引したいです。
下値は137円台を維持している間は強い動きが期待できそうです。
137円を割り込んでも136円、135円台にもサポートがあります。
株価などが急落し、135円も割り込んでくるような動きが出れば３月後半から続いた上昇トレンドが崩れてくるので警戒した方がよさそうです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週は上昇したペアが多く、今週もこの流れが続くことを期待したいです。
ただし、クロス円は株価が下落すると下げてくることも多くリスク回避の動きに弱いのも特徴です。
週明けから米国株、日本株ともに下がるような動きになると注意がいります。
オセアニア通貨（豪ドル、NZドル）も上昇してきているためチャートの形が良くなってきました。
時々、週足の動きも確認しながら大きな流れに変化がないか確認することも大事です。
南アフリカのランドは利上げ予想となっていますが週足チャートを見ると下落トレンドが続いています。買う場合は慌てずに底打ち確認をしてからがよさそうです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では３月機械受注、5月東京都区部消費者物価指数などがあります。
米国では５月製造業・サービス部門・総合PMI（速報値）、４月新築住宅販売件数、５月リッチモンド連銀製造業指数、FOMC議事要旨、1－3月期GDP（改定値）、前週分新規失業保険申請件数、４月住宅販売保留指数、４月個人消費支出、４月耐久財受注、５月ミシガン大学消費者信頼感指数などがあります。
欧州ではユーロ圏とドイツで5月製造業・サービス業PMI（速報値）、ドイツで５月IFO企業景況感指数、1－3月期GDP（改定値）などが発表されます。
ほかにはニュージーランドと南アフリカで政策金利の発表などがあります。

Copyright©（有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved